

医療機関アンケート集計結果等について【飛騨圏域版】

平成30年8月に実施した「医療機関アンケート」の回答があった医療機関を一覧にしています。

No	医療機関名	圏域	所在地	2017年7月1日時点機能別病床数 ① 【H29年度病床機能報告結果】						将来（2025年）の病床機能の予定 ②						②-①						備考
				合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟・廃止等）	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	その他（休棟等）	
1	岐阜県立下呂温泉病院	飛騨	下呂市	206		104	102			206		104	102			0	0	0	0	0	0	
2	下呂市立金山病院	飛騨	下呂市	99		50	49			99		42	57			0	0	▲ 8	8	0	0	
3	国保飛騨市民病院	飛騨	飛騨市	91		58		33		91		58		33	0	0	0	0	0	0	0	
4	高山赤十字病院	飛騨	高山市	476	16	353	107			420	70	200	150			▲ 56	54	▲ 153	43	0	0	
5	久美愛厚生病院	飛騨	高山市	300		228	49	23		300		184	49	67	0	0	▲ 44	0	44	0	0	
6	高山厚生病院	飛騨	高山市	100				100		56			56		▲ 44	0	0	0	▲ 44	0	0	
7	アルプスベルクリニック	飛騨	高山市	19		19				19		19			0	0	0	0	0	0	0	
8	下呂市立小坂診療所	飛騨	下呂市	19		19				19		19			0	0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
9	ナチュラルクリニック21	飛騨	高山市	19		19				19		19			0	0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
10	黒木医院	飛騨	下呂市	19		19				19		19			0	0	0	0	0	0	0	②について、未記入のため、H29年度病床機能報告結果（6年後の機能）を用いる
参考資料 3 - 1 【小計】				1,348	16	869	307	156	0	1,248	70	664	358	156	0	▲ 100	54	▲ 205	51	0	0	※精査中

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
1	岐阜県立下呂温泉病院	飛驒	<ul style="list-style-type: none"> ・理念 地域の中核病院、「へき地医療の拠点病院」として“生活の場の医療”を県立病院の立場から創設し、地域住民及び県民から信頼され、必要とされる病院づくりを目指している。 ・診療実績 届出入院基本料:急性期一般入院料(一般病棟)、回復期リハビリテーション病棟入院料、地域包括ケア病棟入院料(特定入院料) 病床稼働率:81.3%(平成29年度) ・職員数(医師数26人、看護師214人、その他専門事務等166人)※H30.4.1 ・自施設の特徴(4機能うち、急性期、回復期が中心) ・自施設の担う政策医療としては、救急医療、周産期医療、小児医療の提供 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立病院としての役割・機能を維持するにあたり、現在行っている政策医療と医師確保を両立させながら地域の医療需要に応じていく必要がある。 ・飛驒圏域全体として、人口減少、少子高齢化を見据え、将来の医療提供体制について、地域住民、行政、医療関係者等による合意形成が必要。その上でそれぞれの医療機関の役割分担と併せて、地域医療連携推進法人化も含めた経営基盤の効率化等を研究・検討していかなければならない。
2	下呂市立金山病院	飛驒	<ul style="list-style-type: none"> ・入院基本料 急性期一般入院料5/療養病棟入院料1 ・平均在院日数 16日/356日 ・病床稼働率 68.9%/56.8% ・職員数 常勤 医師8人 看護職員46人 事務職員7人 その他28人 非常勤 医師1名 看護職員13人 事務職員2人 その他27人 ・自施設の特徴(圏域の医療資源の問題で、急性期から慢性期までカバーしている) ・5疾病のうち、所属医師の専門範囲(主に消化器)のがん治療、糖尿病の早期発見、予防に力を入れている。5事業のうち救急医療、へき地医療に重点を置いて活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下呂市内でも金山町は高齢化率が高く、平成27年度で40.7%となっている。今後も独居、高齢世帯が増えると見込まれるため、現状の医療規模を維持することが重要となってくる。しかし、医師の確保および看護師確保が難しいことから、スタッフ福利厚生 の充実、負担軽減策などの検討が必要である。
3	国保飛驒市民病院	飛驒	<p>「思いやりの心」、「信頼される医療」、「地域に愛される病院」を基本理念を掲げ、加速する少子高齢化、人口減少、医師不足、医師の偏在に巻き込まれながら健全経営を目指し、高原郷地域唯一の救急病院としての役割を果たしている。</p>	<p>加速する少子高齢化、人口減少、医師不足、医師の偏在、職員の人手不足等の超高齢化社会の問題を他の地域より先に迎えているため、国の施策よりも早く動かなければならず、高原郷地域唯一の救急病院の使命として1日でも長く存続できる経営を目指すことが課題である。</p>
4	高山赤十字病院	飛驒	<ul style="list-style-type: none"> ・飛驒圏域における医療の最後となるべく、救命救急、災害拠点、がん拠点、周産期、小児救急等の政策医療体制を確保し、高度急性期及び急性期機能を担っている。 ・急性期治療後の患者を円滑に在宅療養に移行できるよう、回復期リハビリテーション病棟及び地域包括ケア病棟を有し、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。 <p>※ 詳細は高山赤十字病院2025プラン参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「急性期医療」かつ「政策医療」を維持していくうえでは、地域的なハンディから慢性的な医師不足があり、安定的な医師確保体制の構築が喫緊の課題である。 ・経営の健全化を實行しつつ、病院の老朽化もあり、新病院建築に向けた準備を行う中で、地域医療構想を踏まえた適正な病床数及び医療機能を検討していく必要がある。 <p>※ 詳細は高山赤十字病院2025プラン参照</p>
5	久美愛厚生病院	飛驒	<p>平成24年5月に移転(耐震化を図るとともに敷地内にヘリポートを常設)し、地域医療に積極的に貢献するため、公的医療機関として救急医療体制の充実を図り、第二種感染症指定医療機関及び地域災害拠点病院としての役割を果たしてきた。</p> <p>移転時に飛驒圏域における緩和医療の中心的役割を担うため、「緩和ケアセンター」を開設し、併せて高山赤十字病院の放射線治療と機能分化をすべく、PET-CT装置を導入し、治療と検査の役割分化を図ってきた。また、平成26年10月には「地域包括ケア病棟」を開設し、回復機能を担う一方、医療と介護の連携を図るため、医療介護センターを設置し、訪問看護及び訪問リハビリテーションを実施して在宅医療推進にも取り組んでいる。</p> <p>病院内に健診センターを設置し、がん検診・特定健康診査の受託により予防医療も積極的に実施している。(詳細は別添「2025プラン」参照)</p>	<p>地域の医療需要の減少が見込まれること、近隣の高山赤十字病院との機能の一部重複があること、初期臨床研修医・専攻医を含む医師の確保が困難になることが想定されることから、地域にとって最良な医療・介護サービスを提供するうえで、経営収支面も含め適正な病床機能のあり方及び病床数について検討が必要。(詳細は別添「2025プラン」参照)</p>

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
1	岐阜県立下呂温泉病院	飛騨		<ul style="list-style-type: none"> ・へき地中核病院として、現状の医療体制を維持、継続する。 ※不採算・特殊部門(救急医療、小児医療、周産期医療、災害医療等)に関わる医療の提供 ・急性期医療の提供と地域包括ケア病床及び回復期病床を有効に活用し、在宅復帰に向けた支援を行う。 	
2	下呂市立金山病院	飛騨	・急性期から回復期 8床	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲30km圏内に病院がないことから、急性期病院としての機能を維持しながら、地域の回復期機能を下支えする方針。 	
3	国保飛騨市民病院	飛騨		<ul style="list-style-type: none"> ・高原郷地域の現状を考慮し、現在の急性期、慢性期病床は維持する必要がある。 	
4	高山赤十字病院	飛騨		<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨圏域における医療の最後の砦となるべく、救命救急、災害拠点、がん拠点、周産期、小児救急等の政策医療体制を確保し、現状の高度急性期及び急性期機能を維持する。 ※ 詳細は高山赤十字病院2025プラン参照 	
5	久美愛厚生病院	飛騨	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要と経営基盤の効率化から、当会が経営する高山厚生病院の医療療養病床を当院へ移すことを含め、病床機能別の病床数についても見直しを検討する。なお、病床数は、高山厚生病院の44床を想定しており、移管時期については未定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療需要や効率的な経営、医療従事者の確保の状況などを考慮しつつ、「地域完結型」の医療を支える役割を担う。 ・政策医療であるがん医療・脳卒中及び心血管疾患への対応を中心とした急性期医療の他、救急・災害・へき地・感染などの事業における提供体制は維持していく。 ・急性期治療後の病状が安定した患者に対して、回復期機能を有効に活用し、在宅や介護施設への復帰支援にかかると一翼を担う。 ・健康寿命の延伸に向け、疾病の予防や早期発見のため人間ドックやがん検診、特定健康診査・特定保健指導の実施体制を行政機関等と連携し維持していく。(詳細は別添「2025プラン」参照) 	

医療提供体制の構築に向けて、各医療機関が地域における自らの立ち位置を把握し、地域の実情に加え、自施設の現状を把握することが重要であるため、お聞きしたものです。

自施設の課題として、各医療機関が地域において今後担うべき役割を検討するにあたり、地域及び自施設の現状を踏まえ、自施設の持つ課題を整理するために、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	自施設の現状	自施設の課題
6	高山厚生病院	飛驒	平成14年12月に国立療養所高山病院から経営移譲を受け、介護療養型医療施設として開設し、療養病床100床により運営しています。高山市内で唯一の療養病床であり、急性期から慢性期へ移行した高齢患者のほか、当院以外で受け入れが困難な医療処置を必要とする要介護者などが入院し高いニーズが窺えます。医療療養病床(44床:療養病棟入院基本料1)・・・平成24年度から5年間の平均病床稼働率は97.2%と極めて高くなっています。高山赤十字病院、久美愛厚生病院などからの入院患者が64.1%を占め、退院患者の54.6%が死亡退院です。また、医療区分2・3が100%であり、医療提供度合が高い患者を受け入れています。介護療養病床(56床:療養機能強化型A)・・・平成24年度からの5年間の平均病床稼働率は97.1%と高くなっています。高山赤十字病院、久美愛厚生病院などからの入院患者が69.8%を占め、退院患者の67.2%が死亡退院です。また、医療区分2・3は6.0%程度と医療の提供度合は低いですが、要介護度4・5の患者が96.2%を占め、日常生活すべてにおいて援助が必要な患者を受け入れています。	<ul style="list-style-type: none"> ■介護保険制度への対応について 療養病床の転換先として、介護医療院等の新しい施設類型が創設されたが、今後、病院の在り方を検討していく必要があります。 ■人的医療資源への対応について 常勤医師1名と非常勤医師2名で通常の診療を行っており、土・日曜日、祝祭日には、岐阜大学医学部・高山市医師会・他厚生連病院の医師の支援により、日当直体制を維持していますが、常勤医師の確保は困難な状況です。 ■施設維持への対応について 施設の老朽化が深刻であり、病院の運営維持には大規模な改修工事を要するため、収支面から厳しい状況です。
7	アルプスベルクリニック	飛驒		
8	下呂市立小坂診療所	飛驒		
9	ナチュラルクリニック21	飛驒		
10	黒木医院	飛驒	病棟停止中。看護、介護職員が地域として不足しているので、病棟が維持できない。	人口減少により医療の減少がある。下呂病院自体が、急性期を縮小して慢性期(包括)を増床しているので、受け皿としての療養床は必要性について検討が必要か。

病床転換予定の有無、転換する病床機能、時期等をお聞きしたものです。

前述の「自施設の現状」「自施設の課題」、「2025年の4機能ごとの病床数」を踏まえ、担うべき役割をお聞きしたものです。

2025年に向けた診療科の見直しについて、お聞きしたものです。

No	医療機関名	圏域	病床機能の転換予定	2025年に向けて担うべき役割	診療科の見直し
6	高山厚生病院	飛騨	地域の医療需要と経営基盤の効率化から、医療療養病床44床を当会が経営する久美愛厚生病院へ移すことを検討する。なお、移管時期は未定である。また、介護療養病床については、介護医療院への転換を検討する。	高山市内で唯一の療養病床であり、急性期から慢性期へ移行した高齢患者や医療処置を必要とする要介護者などの受け入れを担う。	
7	アルプスベルクリニック	飛騨			
8	下呂市立小坂診療所	飛騨			
9	ナチュラルクリニック21	飛騨			
10	黒木医院	飛騨		下呂温泉病院のサテライトとして、入院機能は確保しておく。	